

1 単元名 わたしたちの願いを実現する政治

2 目標

国民生活には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、政治は、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解することができる。

3 単元について

○児童の実態

子どもたちは、昨年3月11日の6校時に震度6弱の巨大地震に見舞われた。震えや泣く子どもも多い中、不安におびえながら屋外へ避難する体験をした。ライフラインも途絶え、市から避難勧告を受け、学校等の避難所で生活した子どもも多く、何気ない日常の生活のありがたさを実感したところである。建物や道路なども復旧しつつあり、今までの生活に戻りつつある現状に大変興味をもっているところである。

子どもたちは、これまでの歴史学習を通じて、異なる時代を様々な視点から比べていくことで、時代の変化をとらえていく学習を行った。そして、歴史上の事象には、様々な背景があることをとらえてきている。

また、時代を代表する複数の人物の関係をとりえ、関係図にまとめていく活動も経験している。

そこで、関係図から時代をとらえる「見方、考え方」を生かし、本単元では、震災の復旧に関わる事実や関係機関相互の関連等について、災害復旧の背景にある市や国の取り組みをとらえることから、考えていけるようにしたい。

○教材観

本単元は、我が国の政治の働きに関する社会的事象に関心を持ち、国民生活には、地方公共団体や国の政治が反映していること、政治は、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることについて理解することをねらいとしている。

学習では、災害復旧の様子を取り上げていく。3月以来、道路などをはじめとするインフラの復旧を子どもたち一人一人が直接目にしていることから、学習のスタートの位置を全員に保証することができる。また、壊れた道路などが次々と直っていく今日、それらは当たり前の光景となってきた。しかし、本単元の学習を行う中で、道路などが直っていく過程には、地方公共団体や国の政治がかかわっていることをとらえられる。今まで漠然と見ていた生活全般には、「政治」というしくみがかかわっていることに気付かせることができる。そして、市民一人一人の願いが政治に反映されていることを実感することができる価値ある教材であると考えている。

これらを教材として、地方公共団体や国の政治が国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考えていけるようにしたい。

○指導観

導入では、震災による「壊れた道路」と「直った道路」の写真を2枚同時に提示する。次に、「壊れた道路は、なぜ直ったのだろうか。」と問い、予想を立てていきたい。子どもたちが現時点で考えている「復旧」に関して見たことや考えていることを出し合い、学習の意欲を高めたい。そして、『「壊れた道路」が、直っていく過程には、どのような「ひみつ」があるのだろうか。』と問い、単元を通して追究する課題をつくる。ここでは、子どもたちが、「壊れた道路」が直っていく過程には、どのような人々がかかわっているのかを中心に話し合うことで、これからの追究活動に対する意欲を高めることができると考えている。

中盤では、調べ学習を中心として多くの事実を集めながら、「ひみつ」を解き明かしていく活動を展開していく。実際の追究場面では、子どもたちが地域に足を運び、関心をもって調査活動を行えるように、地域、特に、町内の人々や市役所の人々にインタビューできる場を設定していく。また、地元出身の市議会議員や前市長がいることから、学習の流れによって、そうした人々から政治に携わった観点で調査活動をしていきたい。また、現場で仕事をしている人の声を聞くことで、災害復旧の取り組みを具体的にとらえることができ、追究していく意欲が高まると考える。

また、様々な立場の人々の復旧の取り組みを追究することで分かってきたことを「関係図」にまとめる作業を取り入れる。「関係図」にまとめることで、「壊れた道路」が直っていく過程には、人々の願いがあり、それが政治とかがかかわっていることをとらえることができると考える。それらの活動を通して、災害復旧の裏側にある政治のはたらきが「みえる」「わかる」ようにしていきたい。

終盤では、税金のしくみと三権分立のしくみを学び、国民一人一人が政治にかかわる意義について考えていく。一人一人が、政治にかかわることができることを意識させ、将来にわたって生き続ける公民的な資質を育てていく学習を展開したいと考えている。

4 「みえる」「わかる」子どもの姿

みえる
わかる

「水戸市や茨城県や国は、私たちの生活を安定させたり、向上させたりするために、政治を行っているんだな。災害復旧などの働きもその一つで、わたしたちは、その政治を支えるために力を尽くしていかなければならないんだな。」

考える

東日本大震災によって、わたしたちはどのような被害を受けたのだろう。①

震災で壊れた道路は、だれがどうやってすぐに復旧させたのだろうか。②～⑤

国の政治は、どのような仕組みになっているのだろう。⑥～⑩

みえる・分かる

・東日本大震災で壊滅した町の様子

・災害から復旧した町の様子

・救援物資が届くまでのしくみ

・災害復旧のために、市役所が行っていること

・市民が市役所に要望を行っていること

・市議会では、市民の願いを実現するために、話し合いながら仕事を進めていること

・災害復旧の取り組みには、税金が使われていること

・国会には、衆議院と参議院があり、国会議員は、選挙によって選ばれていること

・内閣は、内閣総理大臣が中心となって、国民のためにいろいろな政治をしていること

・人々の願いをもとにしながら、まちづくりが進められていること

学習材

○浜田小学校プールのブロック塀
水戸駅南桜川沿い写真

○災害復旧後の写真

○市役所や市議会議員の話

○地域に住む人々の話

○市議会における話し合いの様子
(議事録・写真)

○税金の役割(冊子)

○国会や選挙に関する資料

○内閣・裁判所に関する資料

○まちづくりについてのインタビュー

5 評価規準

- 地方公共団体や国が行う災害復旧の取り組みに関心を持ち、道路・水道などの建物や公共施設が災害から復旧していく経過を進んで調べ、政治や選挙に関心をもっている。 (関心・意欲・態度)
- 災害復旧の取り組みは、わたしたちの生活の安定と向上を図ろうとする地方公共団体や国の働きによるものであることを考え、適切に表現している。 (思考・判断・表現)
- 災害復旧の取り組みや三権分立に関して、聞き取り調査を行ったり、収集した資料を活用したりして、政治の働きと国民生活の関係を文章や図等を用いてまとめている。 (技能)
- 地方公共団体がそれぞれの地域の実態に応じて住民の願いをとり入れながら、国と協力して望ましい施策を実現していることがわかっている。 (知識・理解)

6 単元の指導と評価の計画 (10時間) (○は時数, ◇は評価)

| | | |
|---|---|---|
| ① ② ⑤ (本時) ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ | 東日本大震災によって、わたしたちはどのような被害を受けたのだろう。 | ◇ 災害復旧の取り組みに関心を持ち、復旧の経緯について予想している。 (関心・意欲・態度) |
| | ・たくさんの建物や道路などが壊れてしまったよ。 ・停電や断水が起こったよ。 | |
| | 震災で壊れた道路は、だれがどうやってすぐに復旧させたのだろうか。 | ◇ 道路が直っていくことについて調べる課題を考え、表現している。 (思考・判断・表現) |
| | ・市役所の人に対応したんだな。 ・地域の人何か伝えたんだな。 ・道路を直すには、たくさんの税金が使われたんだな。 ・税金は、国や地方公共団体で集められるよ。 ・工事に使うたくさんの材料を他の市や県などから仕入れてきたんだな。 ・地域の人、直してほしい所を要望したんだな。 ・酒門の坂は、直らないようだけど、どうしてかな。 ・水戸市議会では、国とは別に震災のためのお金を作ったらしいよ。それを補正予算というんだよ。 | ◇ 災害復旧の取り組みについて、調べ、資料を読み取っている。 (技能) |
| | ◇ 道路が直っていくしくみについて考え、話し合い、表現している。 (思考・判断・表現) | |
| | 税金は、どのように集められて何に使われるのだろう。 | |
| | ・災害からの復旧だけでなく、いろいろな場面で税金を納めているんだな。 ・税金は、わたしたちの暮らしを支えているんだな。 | |
| | 市議会議員は、どのようにして選ばれたのだろう。 | ◇ 税金が集められるしくみと使い方について調べ、まとめている。 (技能) |
| | ・わたしたちの願いは、議員さんたちが話し合っ、叶えてくれているんだな。 | |
| | 借楽園は、だれが、どのように直したのだろう。 | ◇ わたしたちの願いを実現させるために市の政治や税金の働きのついて考え、適切に表現している。 (思考・判断・表現) |
| ・県の土木部が、文化庁に直してもらったらしいよ。 | | |
| 国の政治は、どのような仕組みになっているのだろう。 | | |
| 国会・内閣・裁判所は、どのような仕事をしているのだろう。 | ◇ 政治の働きと国民生活の関連を理解し、絵や図等を使い、視覚的に分かりやすくまとめている。 (知識・理解) | |
| ・国会には、衆議院と参議院があるんだね。 ・国会議員は、選挙によって選ばれるんだね。 ・市議会と似ているところもあるよ。 ・内閣は、内閣総理大臣が中心となって、国民のために仕事をしているんだね。 ・裁判所は、法律に基づいて問題を解決し、国民の権利を守っているんだね。 | | |
| 政治を支えるためにできることを考えよう。 | ◇ わたしたちが政治を支えるべくためにできることを考え、表現している。 (思考・判断・表現) | |
| ・大人になったら、選挙に行くようにしよう。 ・税金を払うようにしよう。 ・今までより、ニュースや新聞を見るようにしよう。 | | |

6 本時の指導

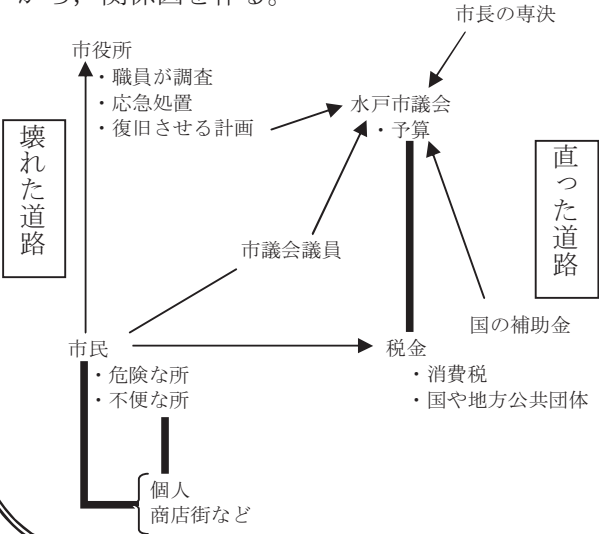
(1) 目標

災害復旧には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを考えることができる。

(2) 授業づくりの課題

災害復旧の取り組みに関する関係図をもとに、地方公共団体や国の取り組みを考え意見交換をすれば、災害復旧の背景にある政治の働きに気付き、理解を深めることができるであろう。

(3) 展開

| 学習活動・内容 | 児童への働きかけ・評価 |
|---|---|
| <p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。</p> <p>震災で壊れた道路は、だれがどうやってすぐに復旧させたのだろうか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ノートやワークシート、補助資料を見ながら、発言してもよいことを伝える。 掲示資料を参考にしながら、考えていけるようにしていく。 座席の形態をコの字型にし、話しやすい雰囲気をつくる。 |
| <p>2 調べたことをもとに市や国の働きを考えながら、関係図を作る。</p>  <pre> graph TD Citizens[市民] -- "税金 ・消費税 ・国や地方公共団体" --> CityCouncil[水戸市議会 ・予算] Citizens -- "危険な所 ・不便な所" --> CityHall[市役所] CityCouncil -- "市長の専決" --> CityHall CityHall -- "職員が調査 ・応急処置 ・復旧させる計画" --> CityCouncil CityHall -- "国の補助金" --> CityCouncil CityHall -- "直った道路" --> Road[壊れた道路] </pre> | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの意見を取り上げながら全体で関係図をつくり、調べたことを整理する。 市役所、市民など、異なった立場で調べた友達の意見などをメモを取りながら聞いたり、まとめたりするよう助言する。 自分が調べた資料を提示してもよいことを伝える。必要があれば、黒板等を使ってもよいことを伝える。 「災害対策本部」など、難しい用語については、補足して説明していくように促していく。 どのような人に聞いたことかを補足して説明できるように準備していく。 |
| <p>3 関係図から気付いたことをまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害復旧には、身近な市役所が大きな役割を果たしているんだね。 みんなが納めた税金が災害からの復旧にもつかわれているんだね。 市だけでなく、県や国も災害復旧に協力して取り組んでいるんだね。 地域の方は、自分たちの願いを市役所などに伝え、願いを叶えてもらうことができるんだね。 国や市役所の政治の仕組みがしっかりしているから、災害からの復旧が実現していくんだね。 | <ul style="list-style-type: none"> ノートを見ながら、発表してもよいことを助言する。 キーワードに着目することで、それぞれの事項が関連していることや重要な事項をとらえていけるようにしていく。 関係図から言葉を引用している場面をとらえ、賞賛する。 友達の意見を書き加えていくことで、より関心を高めていきたい。 <p>㊦ 道路が復旧していく関係図から、政治の働きが反映していることを考え、表現している。 (思考・判断・表現)</p> |